

授業科目 神経科学

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	理学・作業・言語・義肢
今 村 徹		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	(履修上の留意点を参照)
【概要】 神経科学とは「神経」の「科学」のことではない。神経系の正常機能と構造の知識に裏付けられた論理的な思考によって、神経系を障害による症状と疾患の病態を理解することを目的とする。したがって、1年次の『生理学』および『解剖学』を後継する科目であると同時に、2年次後期に開講する『臨床神経学』の先行科目と位置付けられる。授業の題材は神経系の症状と疾患である。1年次の学習内容を含む生理学・解剖学の知識・理論と神経症状・疾患のメカニズムは密接に結びついている。1セッション(計2～3日間)の授業ごとに、(1)神経生理学・神経解剖学、(2)実際の臨床場面で用いられる診察・検査法、(3)代表的な症状・疾患の理解、にいたるまでを一連の流れとして学ぶ。授業中の演習課題とともに、予習項目と復習課題を授業ごとに指示する。					
【学習目標】 神経疾患を逐次的に暗記することではなく、神経科学の考え方で神経症状と疾患を理解することが目的である。個別の学習目標は下記のセッションごとに配布資料の中で提示する。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
	以下の主題を扱う3つのセッションを行う。 (1) 脳 1) 頭蓋内中枢神経系の運動系と体性感覚系の解剖学、頭部MRI、MRA画像検査 2) 虚血性脳血管障害 3) 出血性脳血管障害 (2) 脊髄 1) 筋伸張反射 2) 上位運動ニューロン、体性感覚系と脊髄の解剖学・生理学 3) 脊髄疾患 (3) 末梢神経 1) 神経伝導速度検査 2) 下位運動ニューロンと末梢神経の解剖学・生理学 3) 末梢神経疾患				担当教員：今村 徹 演習 講義と演習 講義 演習 講義と演習 講義と演習 演習 講義 講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		簡要神経学 (第4版)	岩田誠、岩田淳訳	MEDSI	2006・3,800円
		ベッドサイドの神経の診かた(改訂16版)	田崎義明、斎藤佳雄	南山堂	2004・7,200円
参考書		画像診断のため脳解剖と機能系	久留裕、真柳佳昭訳	医学書院	1995・19,000円・演習のグループに1冊貸与する
その他の資料		適宜配布する			
【評価方法】			【履修上の留意点】		
定期試験による。(定期試験の受験許可は授業中の課題と予習課題、復習課題の理解、提出を前提とする)			本授業科目は講義部分と演習部分を含んでいる。講義部分は15時間を、演習部分は30時間を1単位とみなし、講義と演習の合計時間が所定単位と一致するように授業を行う。		